

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.12

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

【第1部】 SS関連トピック EM日本撤退その9

A：TGが取得できない化学事業

- ①合成油、ポリオレフィン関連
- ②触媒ライセンス

B：株主総会も終わり、3月（第一四半期末）も終わりです。

【第2部】 EM（有）の急速な民族系化で仕切りはどうか？

【第1部】 SS関連トピック EM日本撤退その9

A：TGが取得できない化学事業

①合成油、ポリオレフィン関連

この化学事業はTGの事業ではなくなります。

「別にSSとは関係無いじゃん」と思うかも知れません。

しかし、この二つは、「Mobil 1そのもの」なのです。Mobil 1は製造しませんという宣言です。

現状では、TG+EM（有）で、Mobil 1を製造して販売していますが、今後は、TGが製造販売できるのは、鉱物油だけで、Mobil 1は、「EM本体から仕入れて売る」ことになります。

（正確には、EM本体は、TGにMobil 1の製造を委託して（工場はTGですから）、TGは製造費だけを受領し、製品はEM本体から仕入れて販売することになります。場合によってはMobil 1は輸入する可能性もあります。）

つまり、Mobil 1の利益の相当部分が、EM本体に帰属し、TG+EM（有）の利益が減少し、Mobil 1がTG+EM（有）の収益にどれだけ貢献するか未知数です。

②触媒ライセンス

TGは50PPMから10PPMへの「サルファーフリー」への対応で、「脱硫装置」で対応しなかった。

→設備投資でなく、「触媒」で対応。

触媒ライセンスはEM（有）が保有していたが、今後はEM本体に帰属する。

EM本体に触媒使用のライセンスフィーを支払う。又は、触媒を仕入れる。ことになり、金額によっては、減益要因になる。

どの程度の規模になるか定かではありませんが、TG+EM（有）の減益要因の一つです。

場合によると、ガソリン等白油の製造原価の上昇に直結し、製油所の優位性を失う可能性もあります。

B：株主総会も終わり、3月（第一四半期末）も終わりです。

EM本体はEM（有）の所有するTG株300万株を6月1日以前に「第三者」に売却することを表明しています。この売却により、EM本体のTGの所有割合は49%になります。株主総会は1年後ですので、何の意味があるのでしょうか？

1) 株式所有割合が50%未満

2) 出向者（外人役員）が代表権を有さない

ことで、TGはEM本体の連結対象外になります。

株主総会は27日に終了していますが、出向役員は4名から2名になることは表明されてますが、誰が外れて、誰が残るかも公表されてません。株主総会の質問でも「現時点では決まってません。これから決めます。」でした。（役員の退任は、辞表の提出だけでOKです。）

決まったのは、日本人役員が3人増え（全員、EM（有）の役員と兼務です）、外人が2人減るので、差引きは1人の増員です。そして、役員報酬の総額の上限が、月額3,000万円（年額3億6千万円）から7億円にほぼ倍増し、社外取締役2名の報酬の総額の上限が7,000万円になったことです。

【第2部】 EM（有）の急速な民族系化で仕切りはどうか？

EM（有）内部では、運営に関して、急速な民族系化が進行しているようです。形式外資系、実質は民族系になりつつあります。形式外資系は、昭和シェル石油とコスモ石油がありますが、両社とも、運営は民族系です。実質的には、唯一の外資系が消えることになるようです。

EMが先頭を走り、その他の元売が後追いするという今までの構図が大きく崩れるのでは予想されます。

今後は、JXが先頭を走るようになると思います。

JXの先行価格指標始め、各元売の仕切りも今までは、EM外販価格連動ですが、今後はどうなるのでしょうか？

ここ数週間、今までとは少し違う状況も散見され、非常に注目されます。

4月以降、混乱する可能性もありますので、要注意です。

いずれにしろ、RIMさんの役割が今までより増大することは確かですので、RIMさんの活躍に期待しましょう。

なお、本メルマガは、公認会計士中澤省一郎のセミナー等に参加したことがある方や、名刺交換をした方を中心として配信しております。本メルマガ配信をご希望のご友人等がいる場合には、下記HP

<http://nakazawa-cpa.net/>

のトップページからお申し込み頂けます。

ご本人のメールアドレスをご記入の上「購読」ボタンをクリックしてください。

本メルマガの配信をご希望でない方は

<http://nakazawa-cpa.net/>

のトップページから、メールアドレスをご記入の上「購読解除」ボタンをクリックしてください。

公認会計士・税理士 中澤省一郎
nakazawa-cpa@eco.ocn.ne.jp
